

民主党の農業政策

(民主党政策集 INDEX 2009 から抜粋)

いよいよ、9月16日に鳩山民主党政権がスタートする。民主党は、マニフェストで小規模農家でも安心して農業を営めるように「戸別所得補償制度」を創設、農業と畜産・酪農、漁業、林業を再生させると訴えた。更に自民党や全農が猛反発した、米国との間でF T A (自由貿易協定) 交渉を促進し、貿易・投資の自由化を進めることを謳っているが、その際、食の安全・安定供給、食料自給の向上、国内農業・農村の振興などを損なうことは行わないと言っている。

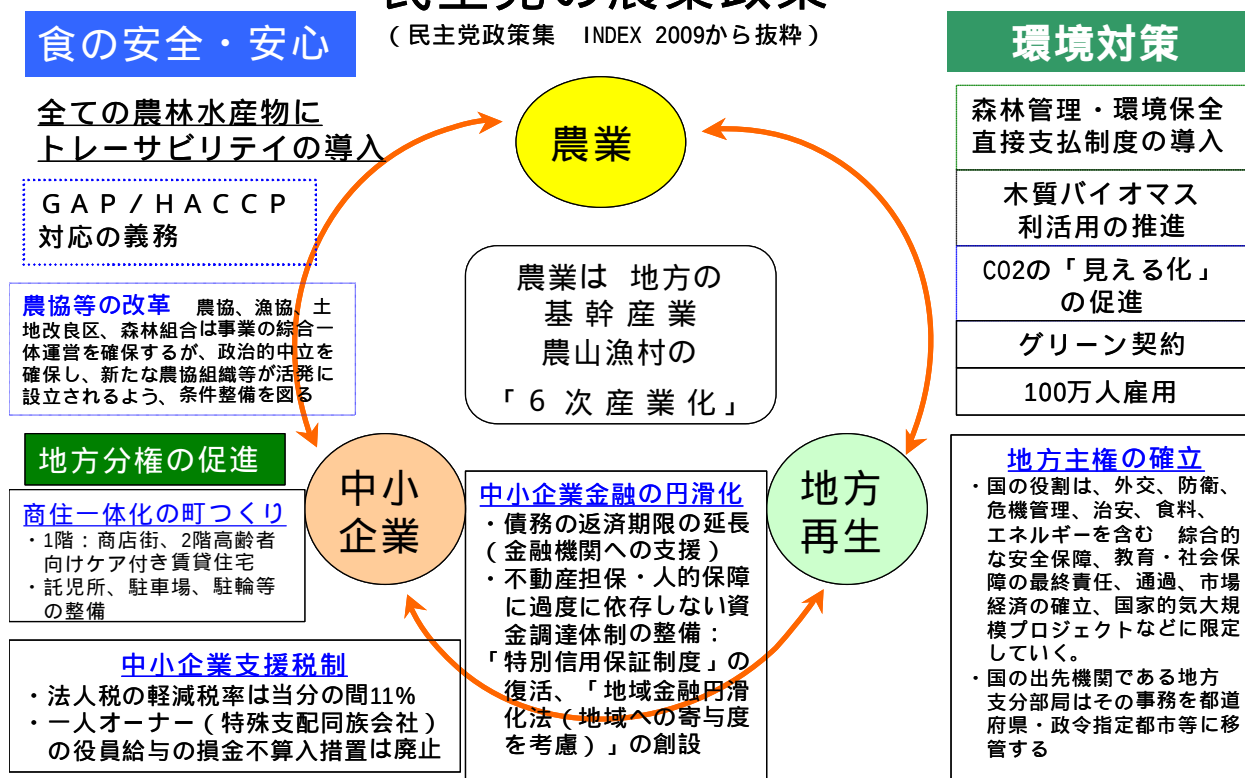
頑張る農家が報われる所得補償

バラ撒きとの批判も多いが、民主党の頑張る農家が報われるという「戸別所得補償制度」は、米、麦、大豆等販売価格が生産費を下回る農産物を対象に、戸別に所得補償する。この制度は、「全国平均の生産費」から「全国平均の販売価格」を控除した価格に、「全国平均の反収に対するその地域の反収倍率」を乗じた額とする。

個々の農家が、生産費を「全国平均の生産費」より抑えることができれば、その差額分が所得の増加をもたらす。販売価格が、「全国平均の販売価格」より高くなればその差額が所得の増額をもたらすことになる。さらに、地域の反収が高ければ支給額も高くなる。個々の農家は反収増大への努力を強めることになる。今までは、減反政策もあり収量をやや抑える傾向にあった。豊作が農家の喜びである。収量が増え、所得補償が増えれば頑張る農家が報われる。

民主党の農業政策

(民主党政策集 INDEX 2009から抜粋)



(前ページより続く)

また、交付金の交付に当たっては、品質、流通(直売所等での販売)・加工(米粉等の形態での販売)への取り組み、経営規模の拡大、生物多様性など環境保全に資する度合い、主食用の米に代わる農産物(米粉用、飼料用等の米を含む)の生産の要素を加味して算定される。これにより、食料の国内生産の確保および農業者の経営安定を図り、食料自給率を向上させ、農業の多面的機能を確保することを狙う。

また、食品の製造工程での安全管理や品質管理を図るための措置として、農業生産工程管理(GAP)や危害分析重要管理点(HACCP)への対応も義務化し、農業に限らず、水産に関するトレーサビリティ(追跡可能性)・システムの導入や、違法伐採による外材の輸入を規制するため、「森林の適切な経営」に基づく木材であることを証明する「トレーサビリティシステム」も導入する。

(次号へ続く)

.....



イオン農場定植イベント開催

9月5日、イオンアグリ創造株式会社牛久農場のキャベツ定植イベントが開催された。好天の中、ジャスコ土浦店が募集した約30人の子供たちがキャベツの定植を体験した。皆とても楽しみながらキャベツの苗を植えていた。収穫祭が楽しいイベントになった。

.....

JGAPセミナー 2009 in 津軽

8月28日、青森県田舎館村役場ホールにて、「食と農を結ぶ農商工連携 JGAPセミナー 2009 in 津軽」と題してセミナーが開催された。日本GAP協会の「JGAPセミナー全国キャラバン」のトップを切って、弘前市榊引商店が事務局となり、青森銀行と当社が後援して110名の参加者があった。

講演のテーマは、「JGAP農場は信頼できる農場の目印」日本GAP協会専務理事武田泰明氏、県内で関心の高いテーマ「台湾向け青森県産リンゴの残留農薬問題と、JGAPを活用した対策」日本GAP協会顧問藤田文雄氏、「JGAPと農商工連携について」当社社長上杉登で、農業生産者、青森県の普及指導員やJA関係者、農業資材・メーカー、農産物流通・食品加工メーカーがそれぞれ4分の1ずつ集った。

参加者のうち生産者のアンケートによると、Q：JGAPに興味を持ったか？ A：とても興味がある／6人、まあまあ興味がある／5人、あまり興味がない／2人、無回答／1人。回答内容としては、時間が足りなかった、農商工連携の講演は、非常に良いサジェスチョンを貰った、もっと聴きたかった等の反響があった。りんご農家は高齢化が進み、JGAPのハードルは高いと感じた生産者もあった様だ。小規模農家、高齢者も一緒に参加できるJGAP団体認証の取り組みが必要と感じた。



古代米(黄稲・紫稲)とつがるロマンを植えて田んぼに描いた「田んぼアート」

9月に入り、一気に秋の空気が流れてきました。東京の今年の夏は暑さも程々に過ごしやすかったのですが、熱帯夜も少ないと少し寂しい感じです。秋を迎えると不思議と寂しい感じがします。

編集局長：小田原次洋 アシスタント：助川尚子

電話：03-5802-2011/E-mail：journal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp